

令和3年度 第1回 学校運営協議会の報告

令和3年度第1回会議は、5月25日(火)に予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面による審議となりました。令和2年度学校評価・令和3年度学校経営計画・授業アンケート質問項目およびこれまでの取り組み状況について、各委員から文書でご意見をいただき、木原会長にご意見を集約いただき、校長、教頭で協議とまとめをいたしました。

出席者(メール、電話、面談にてご意見をいただいた委員)

木原俊行(会長), 中務高俊(副会長), 中川智皓(委員), 山本博資(委員), 富士原純一(委員), 松本理差子(委員)

<議題・協議事項>

○令和3年度学校経営計画について

<中期的目標>

令和2年度に追加される課題は、次の2点と考えます。

①コロナ禍の中でのオンライン授業またはオンデマンド授業の構築

中期的目標に2(1)エ「自律的な学びを高める」を追加したのは評価できる。

本年度の取組エ、評価指標「家庭学習」になっていますが、コロナ禍でなくても活用していく考えが求められる。

近い将来、GIGA スクール構想によって ICT 活用による授業支援を受けた生徒が在籍することになる。オンライン活用、あるいはオンデマンドによる授業支援など「個別最適化され創造性を育む」教育についての構想が必要になる。そのため、現時点ではその一歩として「支援を要する生徒」への学びの保障としての活用が考えられる。

➤ 今年度導入予定の1人1台パソコンの活用を含め、学習のあり方・学習支援に活かしたいと考え、先生方に研修の参加、情報収集に努めていただいています。

②新学習指導要領に対応した学習評価活動に対する取り組み

学習指導要領は、新しい時代を生きる資質・能力育成が目標になっている。同時に、学習評価の充実がもう一つの目標となっている。

高校では、「知識・技能」を活用し「思考力・判断力・表現力」を養い「学びに向う力、人間性」の育成する教育が必要です。今後、各教科・科目において観点別評価と評定が目的に準拠した評価として実施することが求められます。

今年度の取組として、「校内教員研修の実施」としていますが、従来からのルーブリック評価との関連など、研修組織として「プロジェクトチーム」など組織化が必要と考えます。

➤ 昨年度末に職員研修を行い、それを元に各教科で評価を実験的に行っている段階です。並行して検討チームが評価方法について研究を進めています。夏以降に全教職員で研修を行い評価法をまとめる予定です。

○授業アンケートの質問項目について

今後オンラインでの授業(非同期動画)が配信される場合、動画内の教員の質は同じ動画を使う限り同じであるため、その動画授業の質を問うほか、教員のフォローアップ(特に、学習に遅れが生じる生徒等)を問う質問があってもよいと思います。

長期的には、教員は知識の伝授というより、学習進捗を管理したり、鼓舞したりする役割に置き換わってくるのではないかと思います。

○その他

- ・「教員に対し、生徒に導入されるものと同じ端末を一人一台整備した」ということはとても素晴らしいことだと思います。それだけではなく、「その端末を用いた職員会議の実施、教職員への連絡・情報提供など…」と、その端末に教職員が慣れるように意識的に活用しているところがさらに素晴らしいことだと思います。今後、この端末を活用した様々な取り組みを楽しみにしています。
- ・全日本教育工学研究協議会全国大会での貴校のご発表も、積極的に取り組んでおられる学校の姿勢が反映されており、素晴らしいと感じています。
- ・グループワークやグループ活動、ディスカッションが現場でできないことに対し、各人の端末を用いた遠隔でのグループワークの準備などはじめられるとよいかと思います。
- 1人1台パソコンの活用について、研修を進めていきたいと考えます。ご協力いただけることがありましたら、お願いいたします。
- ・夕陽丘高等学校が位置する上町台地は、地震による倒壊被害や水害等には見舞われるリスクが少ない場所であり夕陽丘高等学校も災害時の避難場所に指定されています。
当地域である五条校区ではこのコロナ禍でも規模を縮小しながらも防災減災の訓練をしております。もし、平日で生徒たちが学校での授業中に大きな地震に見舞われたとき、本校において安全が確認された後には急遽学校は避難場所に変更されます。その際に校内の生徒たちは避難民ではなく、避難民の受け入れ人員とならなくてはなりません。是非とも、可能であれば、避難所開設訓練をされては如何でしょうか。五条地域の防災リーダー（天王寺区では災害救助青年部と称します）がお手伝いできると思いますのでご一考を。
- コロナ禍の中でどれだけ一学校に集まって訓練が可能か見えないところもありますが、ぜひとも地域と連携した取り組みを行いたいと考えています。（避難所開設訓練は、平成28年度に天王寺区と合同で行って以来できておりません。）出来る規模で進めたいと思います。よろしくお願いします。
- ・今後、コロナ感染症が終息したとしても、オンラインはあって当たり前の社会になると思います。今年度導入される端末と共に、上手く活用して頂きたいと思います。
- PTA活動も含めてオンラインでできるようなことはないか、検討して実施できるよう整備ができればと思います。

<議決事項> なし

<まとめ>

令和3年度の学校経営計画は、令和2年度までの取り組み内容とそれに関する学校評価結果を踏まえて、合理的に作成されており、妥当なものである。特に以下の点については、協議会として高く評価したい。

- ①ICT（特に、一人1台端末の環境）活用と、それを発展させるための組織的取り組み、校務の情報化
- ②①を活かした、国際交流活動
- ③教育相談や進路指導の体制の整備

①については、コロナ渦が落ち着いてからも、それが継続・発展するように取り組んでいただきたいと考える。また、令和4年度からの新学習指導要領の全面実施において課題となることが予想される「観点別学習状況評価」については、校内研修等を計画されているが、それを強化することが望まれる。さらに、昨年度からコロナ渦で実施が難しくなっている地域との連携については、防災に関するものは、喫緊の課題であるし、地域組織の支援も得られそうであるから、なんらかの実施を検討していただきたい。

第2回運営協議会は 10月下旬に授業見学と合わせて予定しております。

令和3年度 第2回 学校運営協議会の報告

令和3年11月9日(火)14時50分より、令和3年度第2回学校運営協議会を開催しました。

出席者

木原俊行(会長), 中務高俊(副会長), 中川智皓(委員), 山本博資(委員), 富士原純一(委員), 松本理差子(委員)

議事に先立って授業観察を行い、今年度導入された一人一台端末(Chromebook)を活用した授業を見ていただいた。委員からは「共同で意見が書き込み、集まらなくても考えを共有できる」といった声のほか「入力(タイピング)が遅い」というスマホに慣れている今の高校生の課題となる声もあがっていた。

委員・事務局紹介に続いて、令和4年度使用教科書採択について審議いただき、その後校長より今年度のこれまでの教育活動および令和3年度学校経営計画の進捗状況について説明、報告をしました。

委員の方に見ていただいた資料は以下の4点です

- ①令和3年度学校経営計画について
- ②令和3年度授業アンケート(第1回)結果について
- ③学校教育自己診断について
- ④令和4年度使用教科書について

<議題・協議事項>

○これまでの教育活動と学校経営計画進捗状況に対していただいた意見

- ・コロナ禍の中で、やるべきこと・やれることを自主自律の精神のもと取組まれている。特に体育祭(外部体育館を借用して実施)・文化祭(規模を縮小)や近隣中学校との合同合唱など感染対策を講じながら実施されているのはよい。
- ・一人一台端末を活用した教育活動について、ICTに関して進んでいると思う。GIGAスクール構想にもあるように今後は持ち帰り学習などの課題に学習支援ソフトも活用すればいいのではないかと感じた。
- ・今日の授業を見ているとパソコンの横に教科書も開かれていて、それぞれの必要とする点を生かされていると感じた。アナログとデジタルの過渡期とも感じた。
- ・国際交流に関しては、コロナにより対面で行うことはできないが、経営計画にもあるように国内にいながらオンライン交流を積極的に取り入れているのはいいことである。時差の問題など苦勞もあるが今後も工夫して行ってほしい。
- ・地域交流については、正直、地域自体が様々な活動ができない状態になっている。特に校区内の小学校では、児童数増で校庭に仮校舎を建てるなどの対応で、運動会も学年別に実施している。2年間も続けて地域活動が止まると、継承できなくて今後できるかどうか不安である。これまでと同じことはできない。密にならないよう工夫して行いたい、そもそもふれあうことが地域行事であり、苦しいところである。PTAとしては、学校行事の配信はよかった。コロナでなくても平日の昼間に見に行けない場合もあるので、後日見ることができるのは、保護者としては助かるので、今後も続けてもらえればありがたい。同窓会も人数を制限して総会を実施した。密だからやめるのではなく、一部の人数に限った形でも行う工夫が必要。

<議決事項> 令和4年度使用教科書

<まとめ>

昨年度と同様、今年度も1回目は書面開催となり今回が初めて顔を合わせての会議となりました。授業観察を含め学校の様子を見て確認していただきました。委員からいただいた上記意見をもとに、今後もより意識を高く持って、教育活動を展開してまいります。

最後に、次回第3回学校運営協議会(日時未定)の連絡と挨拶の後、閉会となりました

令和3年度 第3回 学校運営協議会の報告

令和3年度第3回会議は、2月8日(火)に、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からZoomによるオンライン開催となりました。学校長の挨拶に続き、次の4点について校長・教頭から説明の後協議に入りました。

- ① 令和3年度学校経営計画および学校評価(案)について
- ② 令和4年度学校経営計画および学校評価(案)について
- ③ 令和3年度学校教育自己診断について
- ④ 令和3年度授業アンケートの結果について

出席者

木原俊行(会長), 山本博資(委員), 富士原純一(委員), 松本理差子(委員)

欠席者

中務高俊(副会長), 中川智皓(委員)

<議題・協議事項>

令和3年度学校評価(今年度の取組み)については、大阪府立夕陽丘高等学校(以下、学校)の本年度の取り組み内容とそれに関する学校の自己点検の結果は、各種のデータに基づいて合理的に判断されており、妥当である。全体として、コロナ渦にあっても、学校の教職員が一体となって、生徒のためにできることに積極的に取り組んでいった姿勢に、学校運営協議会としては敬意を表したい。ただ、学校教育自己診断のいじめに関する項目で、生徒と教員の肯定率に差が生じていることに関して、教員組織の中での情報共有と組織の向かう視点について強化する必要があるとの意見を頂いた。また、先の見通しの持たない中で、国際交流をオンライン交流で充実させるなど出来ることをしっかり取り組んでいる点やPTA活動も制限される中、何かできることがあれば協力するとの関係性もできていて、いい環境にあるとの意見を頂いた。

令和4年度学校経営計画については、新学習指導要領下での教科書・授業について、より総合的・探究的な授業展開や観点別評価、一人一台端末の活用などをこれまでのようにカリキュラム・マネジメントを生かして成果を出されることを期待している、との意見を頂いた。

<議決事項> 令和3年度学校経営計画および評価と令和4年度学校経営計画について、承認を受けた。

<まとめ>

今年度の取組みについて、コロナの影響のある中で、できることを着実にやり、定めた計画の指標を満たしている。との肯定的評価をいただいた。